

株式会社東京精密 2022年度(2023年3月期) 第1四半期決算概要

2022年8月2日

2023年3月期 第1四半期決算説明会(Web開催)

当社 出席者：

代表取締役副社長CFO 川村 浩一

経営支援室 高嶋 直樹

◆ 将来の事象に係わる記述に関する注意

- 本資料に記載されている情報、ならびに口頭で提供される情報は、現時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。
- これらは、市況、競争状況、半導体業界ならびに自動車関連業界等の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。
- 従って、今後の当社の実際の業績が、本資料に記載されている情報と大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

◆ 表記データ・用語について

- 注記がある場合を除き、**半導体製造装置セグメント**を「半導体」、**精密計測機器セグメント**を「計測」、また**親会社株主に帰属する当期純利益**を「当期純利益」と記載します。
- 記載されている金額や比率の情報は、注記がある場合を除き、億円またはパーセントによる要約表示を行っております。その為、内訳の計が、合計と一致しない場合があります。
- **2022年度より、在外子会社の収益及び費用は、従来の期末レートから期中平均レートにより円換算する方法に変更しております。これに伴い、2021年度の数値は、期中平均レートを遡及適用した数値を記載しております。**

◆ 監査について

- 本プレゼンテーション資料は、監査法人による監査の対象外です。

- 代表取締役副社長CFO の川村です。日頃大変お世話になっております。
- 決算の説明に先立ちまして、皆様にご案内がございます。
具体的には 青字の部分です。
- 当社は、今年度より、在外子会社の収益及び費用の円貨換算方法を従来の期末レートから期中平均レートへ変更いたしました。
- これは、一時的な為替相場の変動による期間損益への影響を緩和し、海外の子会社の業績を適切に連結財務諸表に反映させるためのものです。
- この会計方針を前年度の決算にも遡及適用しております。
従って 本資料に記載の前年度の実績は、遡及適用後の数値となっております。
- それでは、第1四半期の決算説明に入らせていただきます。

四半期業績(億円)	2021年度				2022年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前四半期比	前年同期比
受注高	414	464	556	427	462	+8%	+12%
売上高	288	324	314	381	279	-27%	-3%
営業利益 (営業利益率)	60 (21%)	69 (21%)	63 (20%)	91 (24%)	57 (20%)	-38%	-5%
経常利益	60	70	65	97	65	-33%	+8%
当期純利益	44	53	48	70	48	-31%	+10%

- 受注高は、引き続き高水準を維持
- 中国ロックダウンに伴う据付遅延を主因に減収

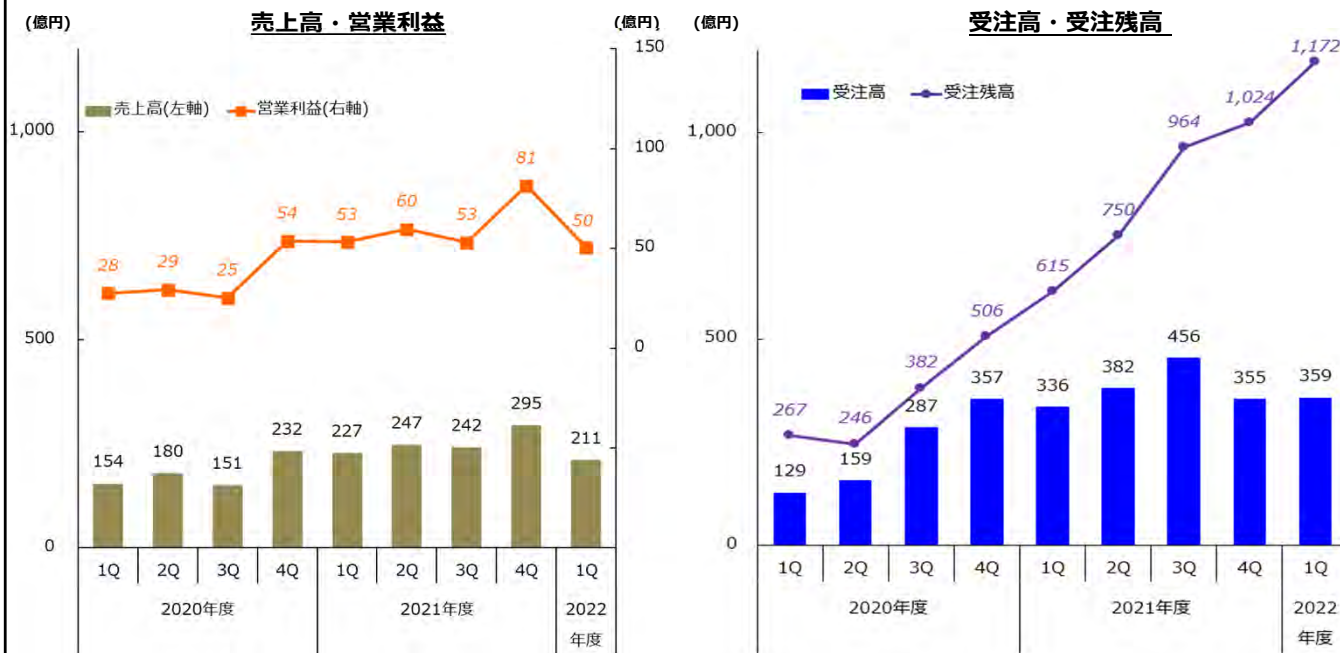
- 2022年度第1四半期の業績は、ご覧の通り、
受注高は 462億円、売上高 279億円、営業利益 57億円、
経常利益 65億円、親会社株主に帰属する当期純利益は48 億円となりました。
- 全社の受注高は、前年同期、前四半期ともにプラスとなり
社内計画を上振れました。
半導体製造装置セグメントの受注水準が高いまま推移したことに加え
精密計測機器セグメントの受注高が大幅に増加したことが要因です。
- 売上高は前年同期、前四半期ともにマイナスとなり、
社内計画を下振れ、また減益の着地でした。
主因は中国でのロックダウンであります。
- また、為替差益などを計上した結果、経常利益、当期純利益は
前年同期比でプラスとなりました。

四半期業績(億円)	2021年度				2022年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前四半期比	前年同期比
受注高	336	382	456	355	359	+1%	+7%
売上高	227	247	242	295	211	-28%	-7%
営業利益 (営業利益率)	53 (23%)	60 (24%)	53 (22%)	81 (28%)	50 (24%)	-38%	-5%

- 受注高は高水準を維持
- 売上高は 中国ロックダウンによる据付遅延を主因に減少
- 生産はフル操業を継続、営業利益率も20%台を維持

- こちらは半導体製造装置セグメントの業績です。
- この第1四半期は、
受注高は 359億円、売上高は 211億円、営業利益は 50億円、
営業利益率は 24%でした。
- 受注高は、前年同期比、前四半期比ともに微増となり、
高水準を維持しました。
- 売上高は、社内計画を数10億円 下振れました。
主因は、中国のロックダウンによる据付遅延で、特にプローバで
影響を受けました。第2四半期以降で挽回する計画です。
生産は、部材逼迫が続く中でも高水準を維持しました。
- 営業利益については20%台を維持しました。

半導体 - 四半期業績推移



- 売上高：プローバを中心とした据付遅延により減少
- 受注高：民生・OSAT需要減の一方、パワー系・ウェーハ製造需要は堅調

Aug. 2nd, 2022

Copyright 2022 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729)

5

○ 半導体の売上高、営業利益、受注高などの四半期推移グラフです。

○ 左側は売上高と利益の推移です。

中国のロックダウンによる据付遅延で、売上高は減少しました。

○ 右側は受注高、受注残高です。

第1四半期の受注ですが、民生向け需要減少で、OSATなどを中心に受注が減少する一方で、パワー半導体、ウェーハ製造などの需要が好調だったため、前年第4四半期並みの数字となりました。

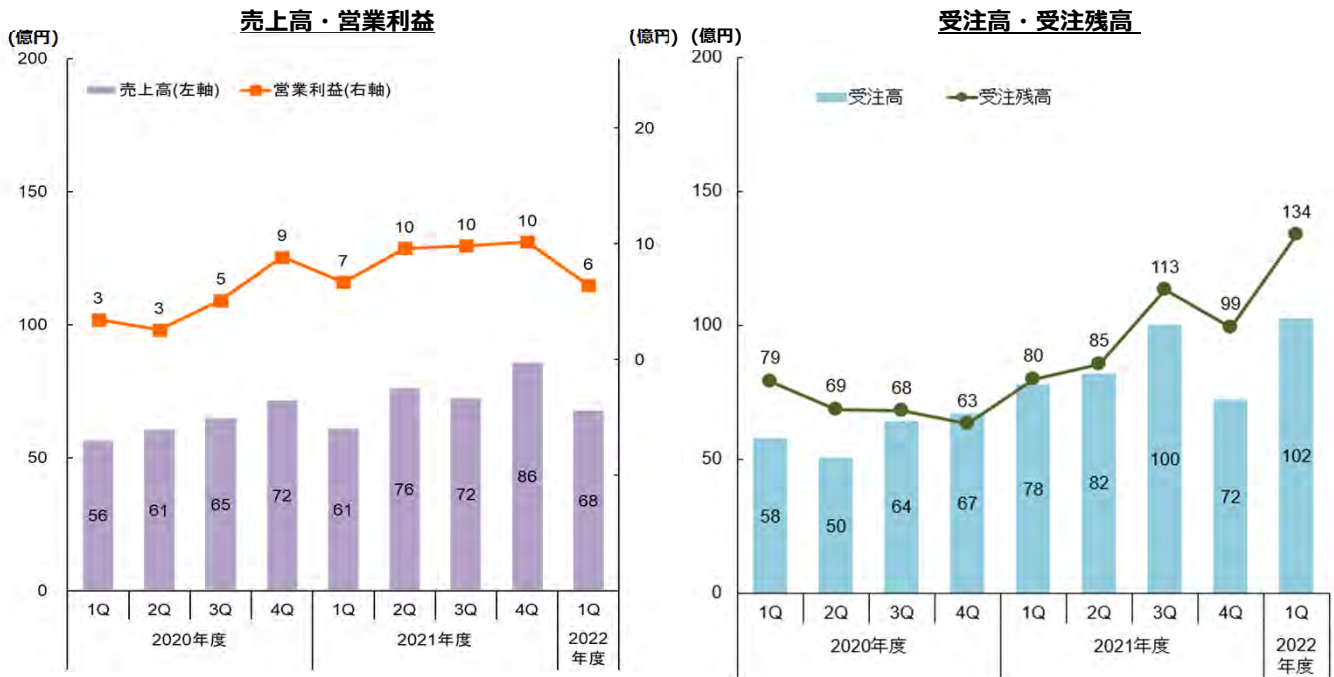
○ なお、第2四半期の受注高の見通しですが、

装置の長納期を理由とした調整や、民生向け需要の一服感などを踏まえ、第1四半期比で10%半ばの減少を想定しております。

四半期業績(億円)	2021年度				2022年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前四半期比	前年同期比
受注高	78	82	100	72	103	+42%	+32%
売上高	61	76	72	86	68	-21%	+11%
営業利益 (営業利益率)	7 (11%)	10 (13%)	10 (14%)	10 (12%)	6 (10%)	-37%	-5%

- 受注高は緩やかな回復に加え一時的要因で大幅に増加
- 売上高は中国ロックダウンの影響を受けた
- 利益は製品ミックスにより微減

- 続いて、計測機器セグメントの業績です。
- 第1四半期の実績は
受注高は 103億円、売上高は 68億円、営業利益は 6億円、
営業利益率は 10%でした。
- 受注高は大幅に増加し、当社想定も大幅に上振れました。
モノづくりメーカ全般で 2022年度より設備投資の意欲が回復したこと、
半導体製造装置など、機械・機械部品関連の引合も強かったこと、
さらに、これが第1四半期に集中する一時的な要因がありました。
- 売上高は、こちらも中国のロックダウンの影響があり、
社内計画を若干下振れました。
また、製品ミックス等により、前年同期比で減益となっております。



- 売上高：中国ロックダウンの影響により減少
- 受注高：ものづくり業界全般の回復の他、一時的要因で増加

Aug. 2nd, 2022

Copyright 2022 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729)

7

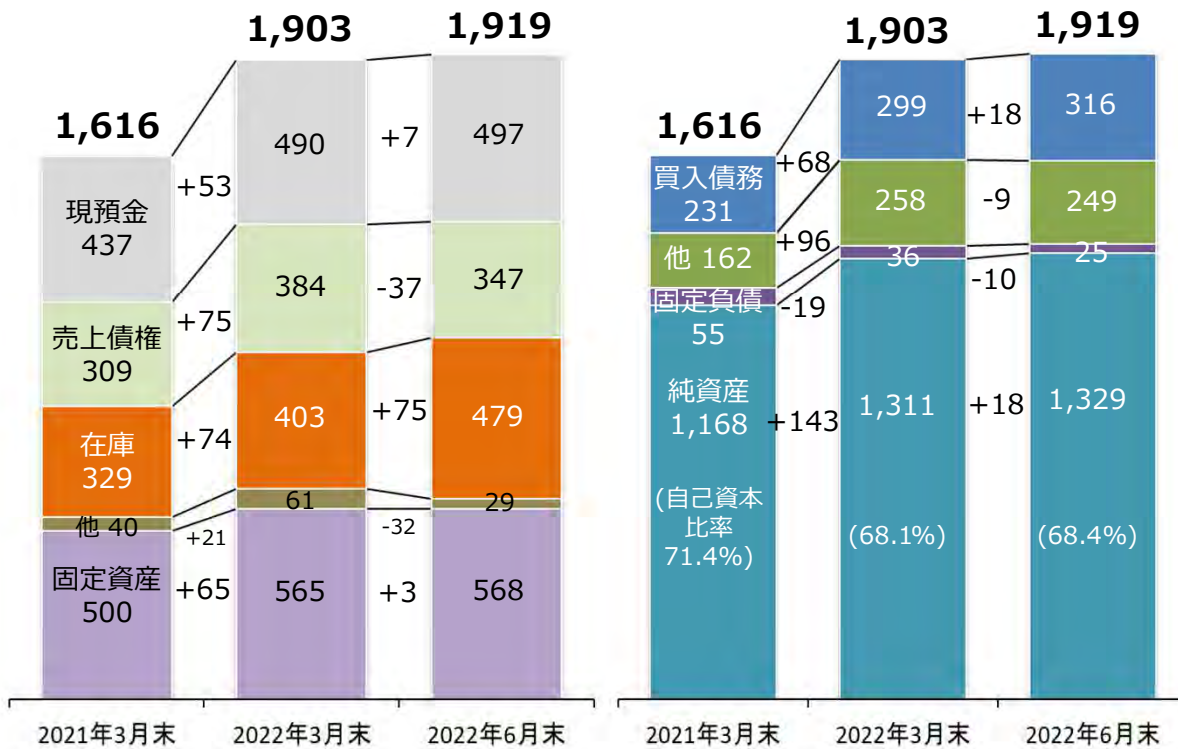
- こちらは、計測の売上高、営業利益、受注高などの四半期推移です。
- 第1四半期の売上高、営業利益は左側のグラフの通りです。
この第1四半期は、ロックダウンにより期ズレが発生しており、また利益も減少しています。
- 右側の受注高、受注残高ですが、
モノづくり業界全般の緩やかな需要回復と、
この第2四半期に予定している 一部製品の価格改定前の注文集中により
四半期既往ピークになりました。
- 第2四半期の受注高の見通しですが、
価格改定の反動減は予想されるものの、一定の水準になると考えており
現時点では 第1四半期比で2割半ばの減少を想定しています。

貸借対照表



資産の部(億円)

負債・純資産の部(億円)



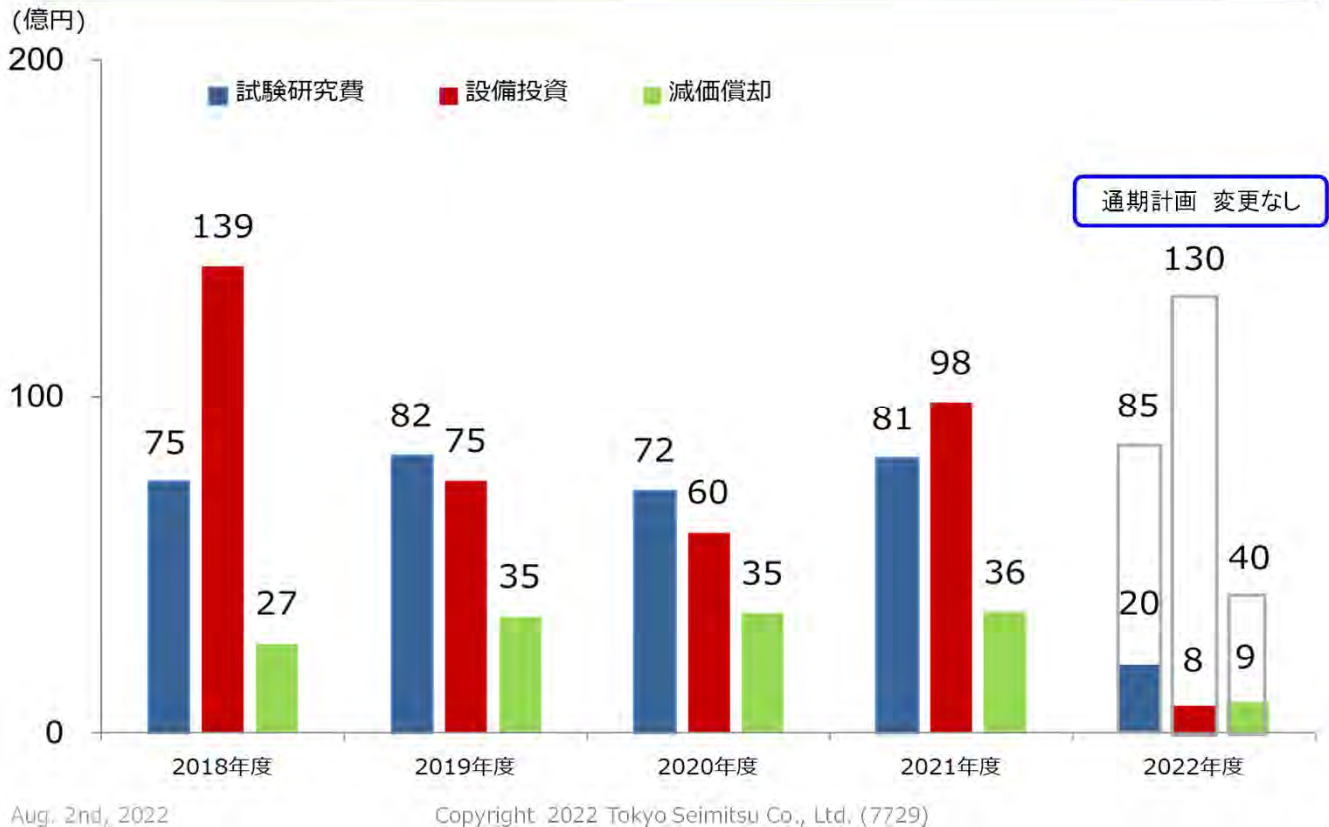
Aug. 2nd, 2022

Copyright 2022 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729)

8

- 次に、貸借対照表の説明になります。
- 2022年 6月末の総資産は 1,919億円となりました。
左の資産の部のポイントは、在庫、棚卸資産の大幅な増加です。
これは、先ほども申し上げたように、ロックダウンにより
売上計上できなかった製品が増えたことが主因です。
- 右側、負債・純資産の部では、
買掛債務と利益剰余金がそれぞれ増加しております。
6月末の自己資本比率は 68.4%となりました。
有利子負債残高は、3月末比で 10億円減少し、45億円です。

試験研究費, 設備投資, 減価償却



- こちらは試験研究費、設備投資、減価償却の第1四半期の実績と今期の計画です。
- いずれも第1四半期の実績は ラップより少ない水準となっておりますが現時点で計画を予定通り進めておりますので、通期計画の変更はございません。
- 現在建設中の埼玉県 飯能工場についても、建設が予定通り進んでおりこの支出の一部が今年度の実績に計上される予定です。

全体

- 年度を通じて高水準の生産を維持
- 部材不足、物流停滞、地政学リスク、コロナ動向を注視

半導体

- **受注は民生向けに調整が見られる**
- 生産拡張対応、研究開発に加えアプリケーションセンタ強化活動に取り組む

計測

- 自動車関連の回復は引き続き緩やか
- 半導体、NEV、自動化分野への拡販を推進

- 次に、2022年度の業績予想についてです。
予想の前提として、5月の説明会でお示した資料をアップデートしたものがこちらとなります。青字が変更点です。
- 半導体の受注について、5月の段階では、「短期的調整が起こりえるとの前提を維持」と記載しておりました。
- 現時点で、製造装置の長納期化を理由とした調整に加え、マクロ経済の停滞に起因する、スマートフォンなどの民生向け需要減少に伴う製造装置の需要調整が見られます。
- しかしながら、ハイエンド製品向け、車載・パワー半導体、更にウェーハ増産向けの需要は引き続き高く、大きな調整には至らないと考えております。
- こうした認識から、今年度の業績予想を修正する必要がある変化は訪れていないと判断しております。

2022年度 業績予想



連結業績 (億円, 円)	2021年度			2022年度予			
	上期	下期	通期	上期予	下期予	通期予	前期比
売上高	612	695	1,307	745	755	1,500	+15%
営業利益 (営業利益率)	129 (21%)	154 (22%)	283 (22%)	153 (21%)	158 (21%)	311 (21%)	+10%
経常利益	130	162	292	153	158	311	+7%
当期純利益	96	117	213	108	112	220	+3%
1株配当			185円			218円	+33円

セグメント別業績予想

(半導体)	受注高	718	811	1,529				
	売上高	474	537	1,011	585	585	1,170	+16%
(計測)	受注高	160	172	332				
	売上高	137	158	296	160	170	330	+12%

➤ 2022年5月10日に公表した通期業績予想・配当予想の修正なし

- 以上の考えから、2022年度の業績予想については、5月にお示しした予想を据え置くことといたしました。
- 半導体・計測ともに、第1四半期の売上高が社内計画を下振れましたがいずれも第2四半期以降の挽回が可能と考えているためです。
- なお、為替前提も円ドル115円を据え置いております。
- 私からの説明は以上となります。ありがとうございました。

質疑応答



サステナビリティ情報：



<https://www.accretech.jp/sustainability/index.html>

IR情報：



<https://ir.accretech.jp/ja/index.html>

補足資料

セグメント別業績推移



(百万円)	会計期間				四半期								
	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2022年3月期				2023年3月期				
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
受注高	半導体	65,335	57,709	93,181	152,896	33,604	38,228	45,575	35,487	35,918			
	計測	33,573	29,866	23,878	33,159	7,780	8,192	9,995	7,191	10,246			
	合計	98,909	87,576	117,060	186,056	41,384	46,420	55,571	42,679	46,165			
受注残高	半導体	27,670	29,182	50,619	102,370	61,493	74,990	96,367	102,370	117,153			
	計測	9,165	7,782	6,301	9,904	7,970	8,535	11,298	9,904	13,367			
	合計	36,836	36,965	56,920	112,274	69,464	83,526	107,666	112,274	130,520			
売上高	半導体	69,117	56,198	71,745	101,145	22,729	24,731	24,198	29,485	21,135			
	計測	32,403	31,728	25,359	29,556	6,111	7,627	7,232	8,585	6,783			
	合計	101,520	87,927	97,105	130,702	28,841	32,358	31,431	38,071	27,919			
営業利益	半導体	13,195	7,915	13,565	24,698	5,320	5,953	5,294	8,130	5,049			
	計測	7,025	4,366	1,996	3,628	667	961	984	1,015	641			
	合計	20,221	12,282	15,562	28,327	5,987	6,914	6,279	9,145	5,691			
営業利益率	半導体	19.1%	14.1%	18.9%	24.4%	23.4%	24.1%	21.9%	27.6%	23.9%			
	計測	21.7%	13.8%	7.9%	12.3%	10.9%	12.6%	13.6%	11.8%	9.5%			
	合計	19.9%	14.0%	16.0%	21.7%	20.8%	21.4%	20.0%	24.0%	20.4%			

損益計算書



(百万円)	会計期間				四半期								
	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2022年3月期				2023年3月期				
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
売上高	101,520	87,927	97,105	130,702	28,841	32,358	31,431	38,071	27,919				
売上原価	60,430	53,452	60,190	77,694	17,413	19,130	19,360	21,789	15,940				
売上総利益	41,090	34,474	36,914	53,008	11,428	13,227	12,070	16,281	11,978				
販売費および一般管理費	20,869	22,192	21,351	24,681	5,440	6,313	5,790	7,136	6,287				
営業利益	20,221	12,282	15,562	28,327	5,987	6,914	6,279	9,145	5,691				
営業外収益	688	255	540	987	134	66	175	611	824				
営業外費用	104	177	235	153	110	27	-76	92	18				
経常利益	20,805	12,360	15,867	29,160	6,011	6,953	6,531	9,664	6,496				
特別利益	58	57	1,354	390	13	-	-	377	5				
特別損失	419	1,712	1,074	34	-	-	-	34	-				
税引前利益	20,443	10,705	16,147	29,516	6,024	6,953	6,531	10,007	6,502				
法人税等合計	5,719	3,598	3,978	8,132	1,651	1,688	1,753	3,038	1,660				
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,665	7,156	12,175	21,326	4,356	5,250	4,755	6,963	4,812				
1株当たり当期純利益 (円)	352.92	171.89	293.83	522.52	106.09	128.30	117.06	171.34	118.38				
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	350.23	170.72	291.43	517.51	-	-	-	-	-	-	-	-	-

貸借対照表



(百万円)		2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期(1Q末)
流動資産	現金及び預金	34,640	43,657	49,033	49,678
	売上債権※1	29,633	30,946	38,367	34,673
	在庫	30,152	32,886	40,325	47,862
	その他	3,345	4,025	6,103	2,947
	合計	97,771	111,516	133,829	135,161
固定資産合計		48,777	50,039	56,457	56,765
総資産		146,549	161,556	190,287	191,927
流動負債	買入債務※2	16,895	23,062	29,876	31,641
	その他	12,121	16,233	25,765	24,883
	合計	29,017	39,296	55,641	56,525
固定負債合計		7,857	5,482	3,564	2,538
負債合計		36,874	44,778	59,206	59,064
純資産合計		109,674	116,777	131,081	132,863
負債・純資産合計		146,549	161,556	190,287	191,927
有利子負債合計		9,641	7,581	5,497	4,552
自己資本比率		73.9%	71.4%	68.1%	68.4%
自己資本利益率(ROE)		6.7%	10.9%	17.4%	-

※1: 電子記録債権、契約資産を含む ※2: 電子記録債務を含む

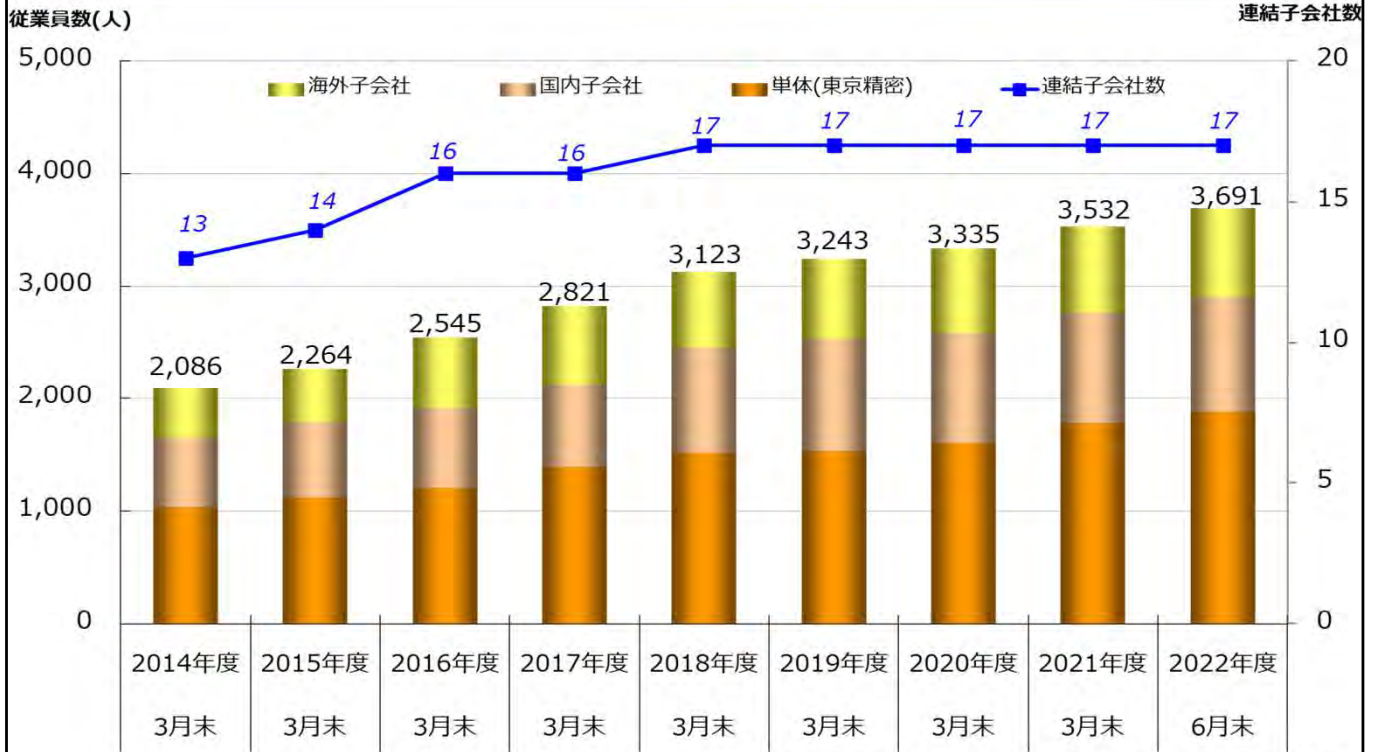
各種費用, キャッシュフロー



(百万円)	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期(1Q末)
試験研究費	8,234	7,193	8,146	2,009
設備投資	7,477	5,950	9,816	797
減価償却費(のれん除く)	3,450	3,516	3,551	882

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
営業活動によるキャッシュフロー	5,965	22,062	24,062
投資活動によるキャッシュフロー	-6,116	-5,191	-9,036
フリーキャッシュフロー	-150	16,871	15,026
財務活動によるキャッシュフロー	-6,375	-8,282	-10,350
現金及び現金同等物に係る 換算差額等	-159	429	706
現金及び現金同等物の期末残高	34,605	43,624	49,006

従業員数推移



注) 上記従業員は、正社員と期末時点の臨時従業員の単純合算